

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和7年7月28日時点

開催日時	開催形式（場所）	名称
8月1日（金） 9:30～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第1回 水素を作る～」
8月2日（土） 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「複合的地球環境問題へのヒューマンディメンションからの問い」
8月2日（土） 13:30～17:35	ハイブリッド （金沢市アートホール）	日本学術会議in石川 学術講演会「大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起」
8月4日（月） ～6日（水）	ハイブリッド （東京大学）	公開シンポジウム「AASSA WISEシンポジウム（“Women in STEM”）」
8月7日（木） 13:00～16:00	ハイブリッド （北海道大学）	公開シンポジウム「次の新興・再興感染症にどう備えるか」
8月7日（木） 13:30～17:30	ハイブリッド （東北大学）	公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」
8月10日（日） 9:30～11:50	ハイブリッド （函館市亀田交流プラザ）	公開シンポジウム「AI時代に「対話」の意味を考える―熟議がつむぐ知と社会」
8月23日（土） 14:00～17:00	ハイブリッド （東京大学医科学研究所）	公開シンポジウム「第14回形態科学シンポジウム「生命科学の魅力を語る高校生のための集い：分子の視点で解き明かす病気のメカニズム」」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

日本学術会議公開シンポジウム

カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用

～第1回 水素を作る～

ハイブリッド開催 参加費無料 要事前登録

社会の喫緊の課題であるカーボンニュートラルにむけ産業界とさまざまな学術分野の連携を図り、水素利用に関する課題を明確化します。水素の利活用というテーマは非常に広い分野が関係するため、水素を「作る」「運ぶ」「使う」等のキーワードで、複数回のシンポジウムを行うことを想定し、第1回は「作る」ことにフォーカスして、産業界で求められている需要を共有し、水素を作る技術とその関連研究の講演と、今後の水素連携につながる議論を行います。

日時: 令和7年(2025年) 8月1日(金) 9:30～17:00

場所: 日本学術会議講堂、およびオンライン開催

9:30～9:40 開催挨拶

常行真司(日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科 教授)

9:40～10:00 来賓挨拶

山口顕(文部科学省研究開発局環境エネルギー課 課長)

廣田大輔(経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部水素・アンモニア課 課長)

10:00～10:30 基調講演「水素エネルギーの将来展望とアカデミアの役割」

佐々木一成(日本学術会議連携会員、材料工学委員会委員、九州大学副学長・水素エネルギー国際研究センター長 主幹教授)

10:30～12:00 講演(産業界3件)

講演1「サイエンスとイノベーションとのつながりー水素の場合ー」

射場英紀(トヨタ自動車株式会社 先端材料技術部 CPE)

講演2「水素社会の実現に向けた鉄鋼の挑戦」

河野佳織(日本学術会議連携会員、材料工学委員会委員、日本製鉄株式会社 フェロー)

講演3「グローバル水素サプライチェーン構築に向けたENEOSの取組」

佐藤康司(ENEOS株式会社 中央技術研究所 フェロー)

ー 昼休憩 ー

13:30～16:00 講演(学術界5件)

講演4「水素科学技術ー研究事例と今後の展開ー」

折茂慎一(日本学術会議連携会員、材料工学委員会委員、東北大学材料科学高等研究所 (WPI-AIMR) 所長 東北大学金属材料研究所 教授)

講演5「半導体光触媒による水分解反応: どうしてそんなに収率が高いのか?」

大西洋(神戸大学理学研究科教授、分子科学研究所特別研究部門 教授)

講演6「水分解光触媒によるグリーン水素および燃料製造技術の開発」

堂免一成(信州大学アクア・リジェネレーション機構特別栄誉教授/東京大学特別教授室特別教授)

講演7「再エネベースのエネルギーシステム構築に向けた水電解水素製造の現状と課題」

光島重徳(横浜国立大学大学院工学研究院 教授)

講演8「低・脱炭素社会に向けた社会基盤材料の水素脆化とその実態解明 ～潜伏期から破壊まで～」

高井健一(上智大学大学院理工学研究科委員長 教授)

ー 休憩 ー

16:15～16:55 パネルディスカッション

16:55～17:00 閉会挨拶

玉田薫(日本学術会議第三部会員、総合工学委員会委員長、九州大学副学長・主幹教授)

主催: 日本学術会議第三部物理学委員会、材料工学委員会、化学委員会、総合工学委員会、
循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会

共催: 日本物理学会、日本金属学会、水素エネルギー協会、水素科学技術連携研究会、
九州大学・水素エネルギー国際研究センター、物質・材料研究機構、
東京大学物性研究所、東北大学材料科学高等研究所

協賛: 応用物理学会、日本MRS、電気化学会、日本表面真空学会

後援: 日本化学会

参加登録はこちら
7/29(火) べ切



参加申し込み: 事前に下記URLあるいは右記QRコードより、7/29(火)までにご登録下さい。

<https://forms.gle/PYaa25YkXZUyeF9d7>

問い合わせ先: 森 初果 hmori@issp.u-tokyo.ac.jp



日本学術会議 公開シンポジウム

複合的地球環境問題への ヒューマンディメンションからの問い

日時：2025年8月2日（土）：13：00～16：00

主催：日本学術会議 フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 地球環境変化の人間の側面分科会

後援：Future Earth 日本委員会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所

場所：オンライン開催 (ZOOM)

申込：参加申込 をクリック、または右の QR コードから 7 月 30 日までにお申込みください。
定員 150 名、参加費無料、会議当日までに ZOOM の URL をお送りします。

問い合わせ：山下 潤（九州大学、scjhd2015@gmail.com）



社会の分断が進む人新世における複雑に絡み合った地球環境問題の解決に向けて、カーボンニュートラル(CN)、サーキュラーエコノミー(CE)、ネイチャーポジティブ(NP)のつながりを、包摂、正義、衡平の視点と、認識、行動、制度の変容の視点から、2030 年の SDGs の先と Well-being を見据えて議論します。

総司会：恵谷浩子（日本学術会議連携会員、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長）

13:00～13:05 開会のあいさつ

谷口真人（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授）

【第1部】環境問題のいま

13:05～13:25「カーボンニュートラルによる影響：公正な移行に向けた地域的対応」

山下 潤（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

13:25～13:45「食品ロスは廃棄物の問題ではない」

渡辺 浩平（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授）

13:45～14:05「地球環境変化の人間の側面から考える生物多様性：社会、経済、環境とネイチャーポジティブの言説について」

香坂 玲（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

【第2部】ヒューマンディメンションからの問題提起

14:05～14:35「グローバルな環境問題における規制と倫理」

立花 幸司（千葉大学大学院人文科学研究院准教授）

休憩 14:35～14:45

【第3部】パネルディスカッション

14:45～15:55

モデレーター：

谷口真人（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授）

パネリスト：

山下 潤（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

渡辺 浩平（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授）

香坂 玲（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

立花 幸司（千葉大学大学院人文科学研究院准教授）

唐沢 かおり（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

豊田 光世（日本学術会議連携会員、新潟大学佐渡自然共生科学センター教授）

15:55～16:00 閉会のあいさつ

山下 潤（日本学術会議連携会員、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

大災害からの復興と 持続的社会的モデルを目指して～ 半島地域からの問題提起

令和6年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有した上でこれまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。

Program

総合司会：松井 三枝（金沢大学国際基幹教育院 教授）

13:30~13:40 ■ 開会挨拶

光石 衛（日本学術会議会長）
和田 隆志（金沢大学長）
馳 浩（石川県知事）

13:40~13:50 ■ 趣旨説明

福森 義宏（金沢大学名誉教授）

13:50~15:45 I 学術講演

司会：中村 慎一（金沢大学理事（研究・社会共創・大学院支援担当）／副学長）

- ① 石川県における創造的復興に向けた取り組みについて
新田町 弘幸（石川県能登半島地震復旧・復興推進部長）
- ② 能登里山里海未来創造センターが見据える能登の復興と日本の未来
谷内江 昭宏（金沢大学理事（附属病院・同窓会・大学基金担当）／副学長、
能登里山里海未来創造センター長）
- ③ 北陸先端大学の産学連携活動と能登半島震災復興支援への取り組み
寺野 稔（北陸先端科学技術大学院大学長）
- ④ 能登半島地震・豪雨災害からの復興の空間計画的課題
姥浦 道生（東北大学災害科学国際研究所 教授）
- ⑤ 日本学術会議における活動報告と提言
一激甚化する複合災害と自助・共助・公助による備えー
久田 嘉章（日本学術会議連携会員・防災減災学術連携委員会委員、工学院大学建築学部
まちづくり学科 教授）

総合討論

休憩（15分）

16:00~17:30 II パネルディスカッション

能登未来を担う若手による能登復興への提言

モデレータ 佐無田 光（日本学術会議連携会員、金沢大学融合研究域 教授）

パネリスト 北澤 晋太郎（NPO 法人ガクソー 理事長）
小山 基（能登 DMC 合同会社 CMO）
新谷 健太（海浜あみだ湯 運営管理）
馬場 千遥（珠洲市特定地域づくり事業協同組合 事務局）
山口 敦子（有限会社山口水産 里山担当）
山下 祐介（のと栄能ファーム 代表）

17:30~17:35 ■ 閉会挨拶

高田 広章（日本学術会議第三部会員・中部地区会議代表幹事、
名古屋大学未来社会創造機構 教授）

Information

日時

令和7年 8月2日（土）

13:30 ~ 17:35

場所

金沢市アートホール

石川県金沢市本町2丁目15番1号 ポルテ金沢6F



・JR金沢駅兼六園口より徒歩2分

開催形式

ハイブリッド開催

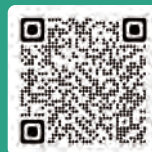
- ・対面 …………… 先着250名
- ・オンライン ……… 先着500名

参加方法

7月30日（水）までに下記
URLまたは2次元コードから
お申し込みください。

定員になり次第、事前申込の受付は
終了します。

<https://ws.formzu.net/fgen/S12764568/>



お問い合わせ先

金沢大学研究推進部研究企画課
TEL：076-264-6198
E-mail：scj-isk@adm.kanazawa-u.ac.jp

公開シンポジウム
「AASSA WISE シンポジウム（“Women in STEM”）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議国際委員会、国際委員会アジア学術会議等分科会
2. 共 催：東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構
(Kavli IPMU)
アジア科学アカデミー・科学協会連合
(The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia (AASSA))
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7年8月4日（月）から8月6日（水）（3日間）
5. 場 所：東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構（千葉県柏市）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

インターアカデミーパートナーシップ（IAP）の地域ネットワークの一つであり、日本からは日本学術会議が加盟しているアジア科学アカデミー・科学協会連合（以下、AASSA という。）には、個別のテーマを取り扱う Special Committees（特別委員会）が設置されており、このうち WISE (Women in Science and Engineering) 委員会は、アジア太平洋地域内の科学教育の推進、科学・工学における女性の活躍推進を目的として活動している。

この度、WISE 委員会委員の伊藤由佳理会員（第3部、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構副機構長）が中心となり、AASSA WISE シンポジウムを日本で開催し、STEM（科学・技術・工学・数学）分野の女性研究者の支援活動について議論するとともに、アジア・太平洋地域における STEM 分野の女性研究者の現状について意見交換を行う。加えて、女性研究者間の恒常的なネットワークを構築し、女性研究者の活躍を後押しするためのメンタリングや支援策の共有を図る。

9. 次 第：

8月4日（月）

以下講演者のうち、現時点での登壇調整者は*を付記。

13:30 開会の挨拶 1 日比谷 潤子（日本学術会議副会長（国際活動担当））
開会の挨拶 2 横山 順一（東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構長）

13:40-14:10 講演 1

Frances Separovic（WISE 委員長：オーストラリア）
（Supporting and increasing the visibility of women in science）

14:20-14:50 講演 2

Supawan Tantayanon（WISE 前委員長：タイ）
（Empowering women in STEM through small-scale chemistry across South and Southeast Asia）

14:50-15:40 休憩

15:40-16:10 講演 3

Aura Castillo Matias（WISE：フィリピン）
（Improving the scientific productivity of women scientists and engineers）

16:20-16:50 講演 4

Elizabeth Oda（Women in Science Japan 代表）

8月5日（火）

10:00-10:30 講演 5

So Young Sohn（WISE：韓国）
（Utilizing highly experienced women in science and technology in the era of population decline）

10:40-11:10 講演 6

Nadira Karunaweera（WISE：スリランカ）
（Gender gap in research and development in Sri Lanka）

11:20-11:50 講演 7

Kadriye Arzum Erdem Gürsan WISE：トルコ）

11:50-13:40 昼食休憩

13:40-14:10 講演 8

Gunakeshari Pradhan Manandhar (WISE：ネパール)
(Barriers to Breakthroughs: Women in Nepal's ICT landscape)

14:20-14:50 講演 9
Bushra Ateeq (WISE：インド)

14:50-15:40 休憩

15:40-16:10 講演 10
Natalia Varlamova (WISE：ロシア)

16:20-16:50 講演 11
Aliya Naheed (WISE:バングラデシュ)

8月6日(水)

10:00-10:30 講演 12
玉田 薫 (日本学術会議第三部会員 (第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ
分科会委員長)、九州大学主幹教授・副学長) *

10:40-11:10 講演 13
益 一哉 (産業技術総合研究所/G-QuAT センター長元東京工業大学学長)
(教員の女性限定公募と大学入試の女子学生枠について)

11:20-11:50 講演 14
小谷元子 (日本学術会議連携会員/東北大学理事)

11:50-13:00 昼食

13:00-15:40 ネットワーキング

15:40-17:00 フリーディスカッション

10. 関係部の承認の有無：無

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

次の新興・再興感染症に

どう備えるか

2025年

8月7日 日 月

13:00 ~ 16:00

会 場

北海道大学医学部学友会館
「フラテ」フラテホール

(北海道札幌市北区北15条西7丁目)

対面及びオンライン(zoom ウェビナー)によるハイブリッド開催

※ 駐車場はありませんので、公共交通機関等でお越しください。

参加費無料 どなたでも参加いただけます

参加申込

事前参加申込制

(申し込み締め切り8月4日)

定員: 対面250名、オンライン400名

参加を希望される方は、下記URL 又はQRコードからお申し込みください。

URL ▶ <https://forms.gle/sm9s8Adc7DtaKEWN7>



お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局

(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)

Tel: 011-706-2155・2166 Fax: 011-706-4873

e-mail: suishin*general.hokudai.ac.jp

(上記 mail アドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

プログラム

司 会 玉腰 暁子 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究院教授)

開会の挨拶 宇山 智彦
(日本学術会議第一部会員／北海道地区会議代表幹事／
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

基 調 講 演 次のパンデミックに備える
～インフルエンザとCOVID-19の経験を踏まえて～
喜田 宏
(北海道大学ユニバーシティプロフェッサー、
同大学人獣共通感染症国際共同研究所特別招聘教授・統括、
同大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点特任教授)

講 演 1 人獣共通感染症に対する対策
澤 洋文
(北海道大学総合イノベーション創発機構
ワクチン研究開発拠点卓越教授・拠点長兼生体応答解析部門長)

講 演 2 クライオ電子顕微鏡を用いた抗ウイルス薬・
ワクチンの研究開発
前仲 勝実
(北海道大学大学院薬学研究院創薬科学部門生体分子機能学研究室教授、
人獣共通感染症国際共同研究所病原体構造解析部門)

講 演 3 新興感染症への疫学インテリジェンス提供の
問題点と未来
西浦 博
(京都大学大学院医学研究科附属ヘルスセキュリティセンター危機インテリジェンス部門教授)

講 演 4 高病原性ウイルス研究者である公衆衛生医師の
視点からCOVID-19 流行対策を振り返る
西條 政幸
(札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当局長、国立感染症研究所(名誉所員))

総 合 討 論 【モデレーター】
渡辺 雅彦
(日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院名誉教授)
玉腰 暁子
(日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授)
樋田 京子
(日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院教授)
【パネリスト】
喜田 宏、澤 洋文、前仲勝実、西浦 博、西條政幸

閉会の挨拶 神田 玲子
(日本学術会議第二部部長／国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事)

参加無料

事前登録制

どなたでも
ご参加できます

研究者になって 世界を駆け巡ろうⅡ

～研究者の卵たちと共に未来を描く～

日時

令和7年(2025年)

8.7 木

13:30

17:30

場所

東北大学大学院工学研究科

青葉山キャンパス C01 センタースクエア中央棟 2F 大講義室
(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6)

ハイブリッド開催

本公開シンポジウムでは、昨年度に続き「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」を開催します。気候変動、エネルギー枯渇、貧困、戦争など、様々な地球規模の課題に立ち向かう日本の研究者たちが、世界中の研究者と力を合わせ、情熱をもって問題解決に取り組んでいます。まさに世界を駆け巡り研究を進めている最前線の研究者の方々を招き、その熱い想いと思い描く未来を中高生や若手研究者たちと共有し、次世代に向けて私たちに何ができるのか、どうやって取り組んでいけばいいのかなど、迷いや不安、疑問をはじめ、新たな気づきやアイデアなどを語り合ひましょう。そして、より良い未来に向けて、まずは“一歩”共に考えていきましょう。

次第

司会進行

北川 尚美

日本学術会議第三部会員 /
東北大学 大学院工学研究科研究科長補佐・教授

13:30～13:40 開会挨拶

光石 衛 (日本学術会議会長/独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事/東京大学 名誉教授)

富永 悌二 (東北大学 総長)

伊藤 彰則 (東北大学 工学研究科長・工学部長)

13:40～16:05 講演

①「世界で輝くための3つの鍵」

②「LLM-jp: Team Science としての LLM 研究開発」

③「ニュートリノで垣間見る誕生1ピコ秒後の宇宙」

④「超硫黄分子と環境ストレス応答」

⑤「AI ロボットと創る未来社会ーグローバル共創の現場から」

城戸 淳二 (山形大学 特任教授)

黒橋 禎夫 (日本学術会議第三部会員/国立情報学研究所 所長)

市川 温子 (日本学術会議第三部会員/東北大学 大学院理学研究科教授)

本橋 ほづみ (日本学術会議連携会員/東北大学 大学院医学系研究科教授)

平田 泰久 (東北大学 大学院工学研究科教授)

16:05～16:10 公開シンポジウム閉会挨拶

五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員・日本学術会議東北地区会議代表幹事/東北大学 大学院医学系研究科教授)

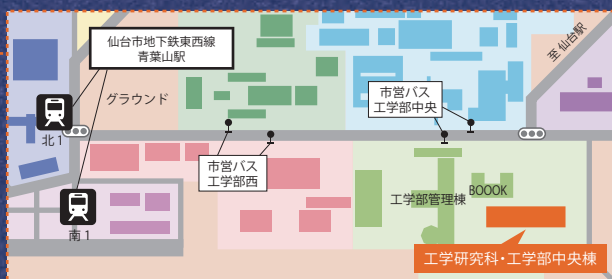
16:10～16:30 休憩 (※オンライン配信終了)

16:30～17:30 グループディスカッション

研究者の卵たちと共に未来を描く (対面グループディスカッション)

▶中高生・大学生と講師や会員との交流の場、参加者からの質問や意見交換を実施

各グループにて写真撮影、クロージング、終了



▶駐車場の用意ができませんので、自家用車での来場はご遠慮願います。

参加申込はこちら ※事前登録制

▶締切 8.3 (日)

対面ディスカッション参加希望は 7.25 (金) まで

▶参加申込方法

下記 URL 又は QR コードより
事前申込をお願いします。<https://forms.gle/cGduCvyDKErKmAny8>

主催

日本学術会議第三部会
日本学術会議東北地区会議
東北大学

共催

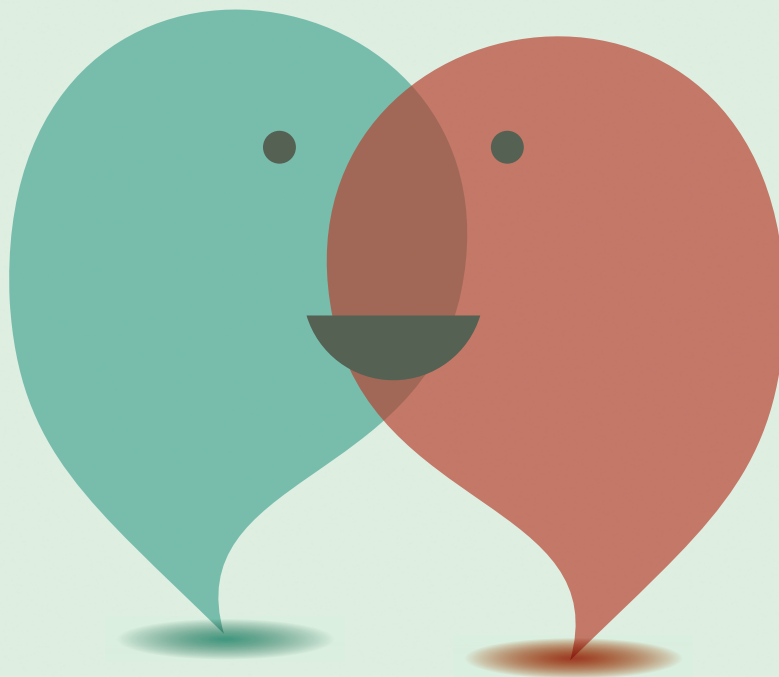
東北大学大学院工学研究科
東北大学「科学者の卵養成講座」

後援

山形大学
国立情報学研究所

【お問合せ先】東北大学研究推進課 TEL. 022-217-4840

過去と向き合うこと、異なる文化や価値観を理解すること、社会のルールを築くこと——こうした営みの根底には、常に「対話」が存在しています。第一部では各分野の専門家から、対話をめぐる多様な論点を提示します。それを踏まえ、第二部では哲学対話の手法を用いて、参加者とともに「AI時代の対話」について深く考えます。



AIの急速な進展は、私たちの生活や社会の在り方に大きな変化をもたらしつつあります。その中で、他者と「対話する」この意味や可能性も、あらためて問われています。本シンポジウムでは、「AI時代に『対話』の意味を考える——熟議がつむぐ知と社会」と題し、歴史学・哲学・地域研究・言語学・法学・社会学という多様な視点から、対話の意義や課題について議論します。

AI時代に「対話」の意味を考える

— 熟議がつむぐ知と社会 — はこだて国際科学祭 2025 プレイベント

日時

令和7年

8月10日(日)

9:30 ~ 11:50

会場

函館市亀田交流プラザ 講堂

(北海道函館市美原1丁目26-12)

対面及びオンライン
(zoomウェビナー)による
ハイブリッド開催

オンラインによる配信は第一部のシンポジウムのみです

参加費無料
どなたでも参加
いただけます

参加申込

事前参加申込制(申し込み締め切り8月6日※)

定員:対面100名、オンライン400名

参加を希望される方は、下記URL又は右のQRコード
からお申し込みください。

URL▶ <https://forms.gle/g5WQuAeVczLf1wRv9>



お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局

(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)

Tel : 011-706-2155・2166 Fax : 011-706-4873

e-mail : suishin*general.hokudai.ac.jp

(上記 mail アドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

プログラム

● 開会の挨拶

日比谷 潤子(日本学術会議副会長・第一部会員/国際基督教大学名誉教授)

第一部 シンポジウム「AI時代に『対話』の意味を考える」

● 趣旨説明

美馬 のゆり(日本学術会議第一部会員/公立はこだて未来大学システム情報科学部教授)

宇山 智彦(日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

● 話題提供① 歴史学から

昔の人びとの声を聴く:歴史との対話から見えること

大橋 幸泰(日本学術会議第一部会員/早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

● 話題提供② 哲学から

AIの時代に、人間って何?:哲学から考える対話の力

河野 哲也(日本学術会議第一部会員/立教大学文学部教育学科教授)

● 話題提供③ 地域研究から

難しい相手と、どうすれば話し合える?:世界の地域紛争から学ぶ対話

宇山 智彦(日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

● 話題提供④ 言語学から

通じたと思って通じてない?:ことばとコミュニケーションの不思議

定延 利之(日本学術会議第一部会員/京都大学大学院文学研究科教授)

● 話題提供⑤ 法学から

社会のきまりはどう生まれる?:対話からどうやって合意を作るのか

只野 雅人(日本学術会議第一部副部長/一橋大学大学院法学研究科教授)

● 話題提供⑥ 社会学から

文化の違いをどう乗り越える?:異文化理解から始まる対話

岩井 紀子(日本学術会議第一部会員/日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学JGSS研究センターセンター長)

第二部 哲学対話:参加者と考えるAI時代の「対話」の意味

● 進行

河野 哲也(日本学術会議第一部会員/立教大学文学部教育学科教授)

● 閉会の挨拶

吉田 文(日本学術会議第一部部長/早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

生命科学の魅力を語る 高校生のための集い

分子の視点で解き明かす病気のメカニズム

2025年8月23日(土) 14:00～17:00

会場

東京大学医科学研究所 講堂

(東京都港区白金台4-6-1)

オンライン参加も可能

参加費
無料

14:00

開会挨拶

渡辺 雅彦 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究院特任教授)

14:05

講演会

講演1

ピロリ菌が胃がんを
引き起こす仕組み

畠山 昌則

(微生物化学研究所・第3生物部 部長、東京大学名誉教授)



司会：武川 睦寛 (日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授)

講演2

脳の非線形性と心の病
シナプスのほんの小さな変化が
心を揺さぶる理由

林 (高木) 朗子

(理化学研究所、チームリーダー)



司会：清川 悦子 (日本学術会議連携会員、金沢医科大学教授)

15:45

高校生と研究者との交流会

司会

武川 睦寛 (日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授)

パネリスト

畠山 昌則 (微生物化学研究所・第3生物部 部長、東京大学名誉教授) 林 (高木) 朗子 (理化学研究所チームリーダー)
澤本 和延 (日本学術会議連携会員、名古屋市立大学大学院医学研究科教授) 内匠 透 (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院医学研究科教授)
寺田 純雄 (日本学術会議連携会員、東京科学大学大学院歯学総合研究科教授) 仲嶋 一範 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部教授)
西 真弓 (日本学術会議連携会員、奈良県立医科大学医学部名誉教授) 大場 雄介 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究院教授)
岡田 由紀 (日本学術会議連携会員、東京大学定量生命科学研究所教授) 清川 悦子 (日本学術会議連携会員、金沢医科大学教授)
桑 昭苑 (日本学術会議連携会員、東京科学大学生命理工学院教授) 水島 昇 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授)
濱崎 洋子 (日本学術会議連携会員、京都大学iPS研究所教授)

17:00

閉会挨拶

森 和俊 (日本学術会議第二部会員、京都大学高等研究院特別教授)

主催 日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医学分科会

後援 東京大学医科学研究所・国際共同利用・共同研究拠点、JST グローバルサイエンスキャンパス事業、日本解剖学会、日本分子生物学会、日本細胞生物学会、日本癌学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会、日本炎症・再生医学会 (予定)

世話人 武川 睦寛 (東京大学医科学研究所 教授) お問い合わせ keitai-sci@ims.u-tokyo.ac.jp

お申し込みは
WEBにて



<https://x.gd/ME4uk>